

教科 公民
----------

科目 公共	(必修)	授業時数 2 単位
		履修学年 1 学年

目標	人間と社会の在り方について、広い視野に立った見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、平和で民主的な国家の形成を担う主権者として必要な資質・能力の育成を目指す。
----	---

### ●学習内容

1 学期	2 0 時間	2 学期	3 0 時間	3 学期	2 0 時間
<b>第 1 部 私たちがつくる社会</b>		<b>第 3 章 私たちの社会の基本原則</b>		<b>第 2 章 私たちと政治</b>	
<b>第 1 章 社会の中の私たち</b>		<b>第 1 節 社会の基本原則と憲法の考え方</b>	16	<b>第 1 節 民主社会と政治参加</b>	12
<b>第 1 節 青年期と社会参画</b>	14			4 地方自治の役割 (松本市議会との交流授業)	
1 私たちの生きる現代社会		1 近代立憲主義の原理		6 選挙制度とその課題	
2 青年期について考えよう		2 近代立憲主義の広がり		<b>第 2 節 国際政治の動向と平和の追求</b>	8
4 ジェンダーについて考えよう		3 日本国憲法		5 国際連合の役割と活動	
5 学ぶことについて考えよう		4 平等に生きる権利			
6 社会参画とキャリアについて考えよう		<b>第 2 部 社会のしくみと諸課題</b>			
<b>第 2 節 宗教・思想・文化と社会</b>	2	<b>第 1 章 私たちと法</b>	4		
1 宗教について考えよう		5 司法の役割			
<b>第 2 章 思想から学ぶべきもの</b>		<b>第 2 章 私たちと政治</b>			
<b>第 1 節 倫理的な見方・考え方</b>	4	<b>第 1 節 民主社会と政治参加</b>	10		
1 よく生きる 古代ギリシャの思想		1 政治と権力			
		2 議院内閣制と国会			
		3 権力分立と行政の役割			

<b>教材</b>
教科書:「046-901 高校生の公共」帝国書院 自主作成教材

<b>授業の進め方</b>
教科書の各単元の理解に必要な基本的な用語の定義を、背景を文字資料や映像資料を踏まえながら確実に定着させる。自らの主張を他者と共有、深化する学習活動により、自己理解と他者理解、さらに取り巻く世界環境について考察し生きる力を育成する。なお令和8年度は講話と板書メインでの授業展開となる。

### ●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度	
評価規準	活用できる (できる)	私たちが生きる社会(公共的な空間)とその形成について、個人と社会、倫理、憲法、人権の視点で理解しているとともに、関連する基本用語を身に付けている。	法や政治に関わる主体として、公共的な空間に関する課題を発見し、将来にわたる持続可能性の観点に基づいて解決する力を身に付けている。	より良い公共空間をつくるひとりの市民として、社会に参画する力の向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
	習得する (わかる)	私たちが生きる社会(公共的な空間)とその形成について、関連する基本用語を理解している。	法や政治に関わる主体として、公共的な空間に関する課題を発見し、解決する力を身に付けている。	より良い公共空間をつくるひとりの市民として、社会に参画する力の向上を目指して、協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	定期考査・課題・ノート・授業観察	定期考査(記述・論述)・課題・ノート・授業観察	課題・ノート等の提出状況、授業に取り組む姿勢。	

## 単元別 評価規準

### 私たちの生きる現代社会

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	私たちの生きる現代社会がどのような社会であるかを理解し、その知識を活用して時事問題を考えることができる。	現代の社会についての諸資料を比較・判断し、現代社会や日本が直面する変化についてまとめ、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	現代の社会について自ら学び、課題の解決策についてのグループ討議に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	私たちの生きる現代社会がどのような社会であるかを理解している。	現代の社会についての諸資料を比較・判断し、現代社会や日本が直面する変化についてまとめることができる。	現代の社会について自ら学び、課題の解決策についてのグループ討議に、協働的に取り組んでいる。

### 青年期について考えよう

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	青年期とは人生の周期の中でどのような時期であり、その特徴を示す言葉の意味を理解し、自己のアイデンティティに気づくことができる。	青年期を理解する資料を収集し、青年期の発達課題について思考・判断し、その内容について分かりやすく表現している。	青年期の発達課題について、自らの問題として進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	青年期とは人生の周期の中でどのような時期であり、その特徴を示す言葉の意味を理解している。	青年期を理解する資料を収集し、青年期の発達課題について思考・判断することができる。	青年期の発達課題について、自らの問題として意欲的に理解しようとしている。

### ジェンダーについて考えよう

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	ジェンダー、LGBT など多様な性のあり方を考えるための基本的な概念を理解し、これらについての日本や世界の現状について思いを巡らそうとしている。	男女共同参画社会の資料を収集し、両性の本質的平等の現状について思考・判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	多様な性による多様性豊かな社会の実現のためには何が必要かについて進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	ジェンダー、LGBT など多様な性のあり方を考えるための基本的な概念を理解している。	男女共同参画社会の資料を収集し、両性の本質的平等の現状について思考・判断することができる。	多様な性による多様性豊かな社会の実現のためには何が必要かについて、意欲的に理解しようとしている。

### 学ぶことについて考えよう

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	近代科学の精神など、学ぶことの考察に必要な知識を理解するとともに、AIの時代にペーコンの帰納法が再評価されていることを理解している。	人はなぜ学ぶのかという問いに対して学ぶことの意義に関する資料を収集し、学び続けることの大切さについて思考・判断し、みずからの意見を表現できる。	AIの時代においても、人間的に豊かになるための生涯学習の重要性について進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	近代科学の精神について理解し、学ぶことの考察に必要な知識を理解し、身につけている。	人はなぜ学ぶのかという問いに対して学ぶことの意義に関する資料を収集し、学び続けることの大切さについて思考・判断することができる。	AIの時代においても、人間的に豊かになるための生涯学習の重要性について、意欲的に理解しようとしている。

### 社会参画とキャリア教育について考えよう

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	働くことの意義について、社会参画と自己実現との関係を考察するための知識を理解し、身につけている。	社会との関わり方を知る資料を収集し、働くことの意義や、自己の職業選択に関して思考・判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	働くことと社会参画・自己実現について、自らの問題として進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	社会参画と自己実現について、その関係を考察するための知識を理解している。	社会との関わり方を知る資料を収集し、働くことの意義や、自己の職業選択に関して思考・判断することができる。	働くことと社会参画・自己実現について、自らの問題として意欲的に理解しようとしている。

### 宗教について考えよう

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	世界宗教としてのキリスト教・イスラーム・仏教の理解に必要な知識を理解し、身につけている。	人々の生活と宗教の関わり方の資料を収集し、宗教が人々の生活にもたらすものについて思考し、その内容を分かりやすく表現している。	21世紀の世俗化した世界における宗教の持つ意義を理解し、異なる宗教観を持つ人々が共生していくための寛容な精神に進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	世界宗教としてのキリスト教・イスラーム・仏教の理解に必要な知識を理解している。	人々の生活と宗教の関わり方の資料を収集し、宗教が人々の生活にもたらすものについて思考・判断することができる。	21世紀の世俗化した世界における宗教の持つ意義を理解し、異なる宗教観を持つ人々が共生していくための寛容な精神の重要性を意欲的に理解しようとしている。

### よく生きる～古代ギリシャの思想

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度

評価規準	活用できる (できる)	先哲の思想(古代ギリシャの3人の思想家(ソクラテス・プラトン・アリストテレス))を現代社会で生きる立場から考察するために必要な知識を理解し、身につけている。	生きることに資する資料に触れ、よく生きることに資する幸福と正義のあり方から思考・判断し、その内容を意見としてわかりやすく表現している。	よく生きるということについて、自らの問題として進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	先哲の思想(古代ギリシャの3人の思想家(ソクラテス・プラトン・アリストテレス))を現代社会で生きる立場から考察するために必要な知識を理解している。	生きることに資する資料に触れ、よく生きることに資する幸福と正義のあり方から思考・判断することができる。	よく生きるということについて、自らの問題として意欲的に理解しようとしている。

### 近代立憲主義の原理

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	近代立憲主義とはどのような考え方であるか、3人の社会契約思想家の考え方などの基本的な理解を踏まえ、国民主権、基本的人権の尊重、権力分立、法の支配など、近代憲法を構成する諸原則に関する知識を身につけている。	近代立憲主義の考え方をを用いて、国づくりにおける憲法制定や法の支配の重要性などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	立憲主義について、自らの問題として進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。今日においても憲法改正を通して長期政権化を進める権力者が見られることなど、今日の世界情勢に関心を持っている。
	習得する (わかる)	近代立憲主義とはどのような考え方であるかを、国民主権、基本的人権の尊重、権力分立、法の支配などの、近代憲法を構成する諸原則に関する知識として理解している。	近代立憲主義の考え方をを用いて、国づくりにおける憲法制定や法の支配の重要性を思考・判断できる。	立憲主義について、自らの問題として意欲的に理解しようとしている。

### 近代立憲主義の広がり

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	近代立憲主義のあゆみに関する基本的な理解を踏まえ、普通選挙の意義、自由国家と福祉国家、全体主義などに関する知識を身につけている。	近代立憲主義と民主主義、君主制と共和制などに関する基本的な考え方をを用いて、安定した政治体制のあり方などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	近代立憲主義の広がりについて、自らの問題として進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	近代立憲主義のあゆみに関する基本的な理解を踏まえ、普通選挙の意義、自由国家と福祉国家、全体主義などについて理解している。	近代立憲主義と民主主義、君主制と共和制などに関する基本的な考え方をを用いて、安定した政治体制のあり方などについて思考・判断できる。	近代立憲主義の広がりについて、自らの問題として意欲的に理解しようとしている。

### 日本国憲法

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	敗戦から、GHQ と日本政府による大日本帝国憲法の見直しに至る経緯についての基本的な理解を踏まえ、日本国憲法の基本原則に関する知識を身につけている。	最高法規としての憲法の位置付けに関する基本的な考え方をを用いて、憲法改正手続きの妥当性などについて思考・判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	現行憲法の三大原理誕生の歴史的過程について、今日的な問題として進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	敗戦から、GHQ と日本政府による大日本帝国憲法の見直しに至る経緯についての基本的な理解を踏まえ、日本国憲法の基本原則に関する知識を理解している。	最高法規としての憲法の位置付けに関する基本的な考え方をを用いて、憲法改正手続きの妥当性などについて思考・判断できる。	現行憲法の三大原理誕生の歴史的過程について、今日的な問題として意欲的に理解しようとしている。

### 平等に生きる権利

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	平等権とは何か、など平等権と差別に関する基本的な理解を踏まえ、差別の現実と差別解消に向けた取り組みに関する知識を身につけている。	平等権に関する基本的な考え方に基づき、現実社会の差別事例と差別解消の重要性などについて思考・判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	平等権とそれを脅かす差別について、自らの問題として進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	平等権とは何か、など平等権と差別に関する基本的な理解を踏まえ、差別の現実と差別解消に向けた取り組みに関する知識を理解している。	平等権に関する基本的な考え方に基づき、現実社会の差別事例と差別解消の重要性などについて思考・判断できる。	平等権とそれを脅かす差別について、自らの問題として意欲的に理解しようとしている。

### 司法の役割

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	国民には裁判を受ける権利があり、そのために司法制度がどのようにしているか、また三審制に関する基本的な理解を踏まえ、司法全般に関する知識を身につけている。	司法権の独立などの基本的な考え方をを用いて、違憲審査のあり方について思考・判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	主権者として裁判員制度などについて、自らの問題として進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	国民には裁判を受ける権利があり、そのための三審制などの司法制度のしくみが	司法権の独立などの基本的な考え方をを用いて、違憲審査のあり方について思	主権者として裁判員制度などについて、自らの問題として意欲的に理解し

		どのようになっているか、司法全般に関する知識を理解している。	考・判断している。	ようとしている。
--	--	--------------------------------	-----------	----------

## 政治と権力

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	政治権力は何のため、誰のためにあるのかを、政治の定義を踏まえ、法の支配の原理を活用して、代表民主制と国民権の考えを背景に考察するための知識を理解し、身につけている。	代表民主制の考えに基づき、政治的無関心がどこから生まれ、どうすれば克服できるかを考察、判断し、国民の政治参加や権力への監視について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	どうしたら国民権の政治を実現できるかについて、自らの問題として進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	政治権力は何のため、誰のためにあるのかを、政治の定義を踏まえ、法の支配の原理を活用して、代表民主制と国民権の考えを背景に考察するための知識を理解している。	代表民主制の考えに基づき、政治的無関心がどこから生まれ、どうすれば克服できるかを考察、判断している。	どうしたら国民権の政治を実現できるかについて、意欲的に理解しようとしている。

## 議院内閣制と国会

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	議院内閣制の考え方の上で日本の国会のしくみ、法律の制定、二院制の特徴を、三権の関係の中で考察するための知識を理解し、身につけている。	日本の国会の課題とその対応について理解し、改善すべき点や課題として捉えるべき内容について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	国会の課題と現状について、主権者として進んでニュース、時事問題に興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	議院内閣制の考え方の上で日本の国会のしくみ、法律の制定、二院制の特徴を、三権の関係の中で考察するための知識を理解している。	日本の国会の課題とその対応について理解し、改善すべき点や課題として捉えるべき内容を考察できる。	国会の課題と現状についてのニュース、時事問題を意欲的に理解しようとしている。

## 権力分立と行政の役割

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	権力分立の考え方を踏まえ、行政(内閣)には、どのような役割と課題があるかを、理解し、日々のニュースで行政の動きを知ることができる。	アメリカの大統領制などと比較しながら、わが国の行政への評価や問題について思考・判断し、行政の課題について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	三権の中では内閣が持つ行政権が強くなりがちであることについて、国民権の立場から自らの問題として進んで興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	権力分立の考え方を踏まえ、行政(内閣)には、どのような役割と課題があるかを、理解している。	アメリカの大統領制などと比較しながら、わが国の行政への評価や問題について思考・判断できる。	三権の中では内閣が持つ行政権が強くなりがちであることについて、国民権の立場から、自らの問題として意欲的に理解しようとしている。

## 地方自治の役割

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	地方自治における、国などの中央政治とは違う役割としくみについての知識を理解し、身につけ、身近な地域の出来事やニュースに関心を持てる。	地方自治が持つ「直接民主制」的な性格を理解し、身近な地域の課題について、自らの意見や主張を積極的に分かりやすく表現している。	身近な地域の課題について、自らの問題として進んで興味・関心を持ち、議員に対し、積極的な提言ができる。
	習得する (わかる)	地方自治における、国などの中央政治とは違う役割としくみについての知識を理解し、身につけている。	地方自治が持つ「直接民主制」的な性格を理解し、身近な地域の課題について、自らの意見や主張を持つことができる。	身近な地域の課題について、議員と自由な意見交流ができる。

## 選挙制度とその課題

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	政治参加の権利(参政権)と日本の選挙制度のしくみについて、特徴と課題を指摘するために必要な知識を身につけている。	参政権を行使する適切な方法について思考し、現行制度の理解の上で、その制度の課題を指摘し民意を反映するためのしくみや制度について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	有権者が自らの意思にもとづいて投票することが、国民権や議会制民主主義を支える意識を持ち、国政選挙の際などには、進んで興味・関心を持ち、模擬投票などに意欲的に参加するため、情報の収集に努める。
	習得する (わかる)	政治参加の権利(参政権)と日本の選挙制度のしくみについて、特徴と課題を指摘するために必要な知識がわかる。	参政権を行使する適切な方法について思考し、現行制度の理解の上で、その制度の課題を指摘し民意を反映するためのしくみや制度について、思考・判断できる。	選挙の重要性を理解し、国政選挙の際などには、興味・関心を持ち、模擬投票などに意欲的に参加しようとする。

## 国際連合の役割と活動

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	国連がどのような歴史的過程で設立されたのか、国連の役割と組織について必要	国連が解決すべき課題にはどのようなものがあるかを判断し、具体的な対応に	国益を越えた人類益の実現を図る取り組みが国連にはあることに気づき、自

		な知識を身につけている。	ついで、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。	らの問題として進んで国際問題に興味・関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。
習得する (わかる)		国合がどのような歴史的過程で設立されたのか、国連の役割と組織について必要な知識がわかる。	国連が解決すべき課題にはどのようなものがあるかを判断し、具体的な対応について思考・判断できる。	国益を越えた人類益の実現を図る取り組みが国連にはあることに気付き、意欲的に理解しようとしている。



		図の用途を説明できる。	いるかを理解し、説明できる。	的かつ協働的に取り組んでいる。
習得する (わかる)		地球の自転や公転、地軸の傾きなどを理解している。	地球の自転や公転、地軸の傾きなどが、季節変化にどのような影響を与えているかを理解している。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

## 第1章 地図や地理情報システムと現代世界 2節 国家の結びつきとグローバル化する社会

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	国家の領域を理解し、日本の領域と領土問題を説明できる。	日本の領土問題の歴史的背景や国家間の結びつきなどを理解し、その解決や課題に対する自身の意見を持つことができる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	国家の領域を理解している。	日本の領土問題の歴史的背景や国家間の結びつきなどを理解している。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

## 第2編 第1章 生活・文化の多様性と国際理解

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	世界の気候分布とそれぞれの特徴を理解し、説明できる。	世界の気候分布とそれぞれの地域の衣食住との関係を理解し、その違いを自身の言葉で説明できる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	世界の気候分布とそれぞれの特徴を理解している。	世界の気候分布とそれぞれの地域の衣食住との関係を理解している。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

## 第2編 第2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	持続可能な開発目標を理解し、説明できる。	持続可能な社会の実現のために、我々が取り組むべきことを理解し、そのために国や個人がどう行動すべきかを提言できる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	持続可能な開発目標を理解している。	持続可能な社会の実現のために、我々が取り組むべきことを理解している。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

## 第2編 第2章 地球的課題と国際協力 2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	世界の貧困・人口・食料・エネルギー問題などを理解し、説明できる。	世界の貧困・人口・食料・エネルギー問題などの原因とこれまでの取り組み、問題解決方法を考え、自身の言葉で説明できる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	世界の貧困・人口・食料・エネルギー問題などを理解している。	世界の貧困・人口・食料・エネルギー問題などの原因とこれまでの取り組み、問題解決方法を考えることができる。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

## 第2編 第2章 地球的課題と国際協力 3節 自然と調和した豊かな社会に向けて

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	自然と調和した豊かな社会とはどのような社会かを理解し、説明できる。	自然と調和した豊かな社会を実現するため、資源に限りがあることを理解するとともに、再生可能エネルギーを利用するうえでの課題や今すぐにでも我々ができることを話し合う。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	自然と調和した豊かな社会とはどのような社会かを理解している。	資源に限りがあることや再生可能エネルギーを利用するうえでの課題を理解している。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

## 第2編 第2章 地球的課題と国際協力 4節 現役世代と将来世代のための地球

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	地球温暖化をはじめとする環境問題を理解し、説明できる。	地球温暖化をはじめとする環境問題などの原因とこれまでの取り組み、問題解決方法を考え、自身の言葉で説明できる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	地球温暖化をはじめとする環境問題を理解している。	地球温暖化をはじめとする環境問題などの原因とこれまでの取り組み、問題解決方法を考えることができる。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

## 第2編 第2章 地球的課題と国際協力 5節 平和で公正な社会に向けて

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	世界の民族問題を理解し、説明できる。	民族問題の歴史的背景や解決に向けた取り組み、今後の展望を考え、自身の言葉で説明できる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する	世界の民族問題を理解している。	民族問題の歴史的背景や解決に向け	疑問点を互いに話し合い教え合うな

	(わかる)		た取り組み、今後の展望を考えることができる。	ど、協働的に取り組んでいる。
--	-------	--	------------------------	----------------

### 第3編 第1章 自然環境と防災

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	自然災害のメカニズムを理解し、説明できる。	自然災害の多い日本において、どのように対応すべきかを考え、自身の言葉で説明できる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	自然災害のメカニズムを理解している。	自然災害の多い日本において、どのように対応すべきかを考えることができる。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

### 第3編 第2章 生活圏の調査と地域の展望

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	地域調査を実施するときの手順を理解し、テーマを決めることができる。	情報収集の方法やまとめ方を考え、他者と意見交換しながら、成果を発表することができる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	地域調査を実施するときの手順を理解している。	情報収集の方法やまとめ方を考え、他者と意見交換することができる。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

教 科 公 民
------------

科目 倫 理	(選択)	授業時数 2 単位
		履修学年 3 学年

目 標	ソクラテス、イエス、仏陀、孔子など古今東西の先哲の思想に触れながら、自己の人生観・世界観・人間観を深めるとともに、広い視野に立ち人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
-----	---

### ●学習内容

1 学期	2 0 時間	2 学期	3 0 時間	3 学期	2 0 時間
<b>第 1 章 哲学の始源：ギリシア思想</b>	20	<b>第 2 章 唯一神の宗教：</b> <b>キリスト教・イスラム教</b>	20	<b>第 2 節 仁と礼の教え— 儒教</b>	20
1 神話から哲学へ—自然哲学者たち		<b>第 1 節 愛の教え— キリスト教</b>		1 儒教の教え	
2 知と徳をめぐる問い— ソクラテス		1 ユダヤ教		2 儒教の展開	
3 理想主義的なあり方— プラトン		2 イエスの思想		3 道家の思想	
4 現実主義的なあり方—アリストテレス		3 世界宗教への展開			
5 幸福をめぐる問い—ヘレニズムの思想		<b>第 2 節 戒律と平等の教え—イスラム教</b>		<b>第 4 章 芸術と倫理</b>	
		<b>第 3 章 東洋思想の源流：</b> <b>仏教・儒教</b>			
		<b>第 1 節 智慧と慈悲の教え— 仏教</b>	10		
		1 バラモン教			
		2 仏陀の思想			
		3 仏教とその後の展開			

<b>教材</b>
教科書:「703 高等学校 新倫理」清水書院 自主作成教材

<b>授業の進め方</b>
教科書の叙述を行間まで深く読み込むとともに、他の原典資料などにも触れ、思想家がその生涯をかけて我々に伝えたかったことは何かを追究する。また時間的余裕があれば、倫理の授業を通して生徒みずから考えたことをレポートにまとめる機会を設ける。令和8年度はいわゆるチョーク&トークの講義形式で授業展開をする。

### ●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度	
評価基準	活用できる (できる)	古今東西の幅広い知的蓄積を通して現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手がかりとなる概念や理論について十分理解している。また諸資料から、人間としてのあり方生き方に関する情報をよりよく調べまとめることができる。	他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。また現代の倫理的諸課題を解決するため倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明や対話をすることができる。	人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。
	習得する (わかる)	古今東西の幅広い知的蓄積を通して現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手がかりとなる概念や理論について理解している。また諸資料から、人間としてのあり方生き方に関する情報を調べまとめることができる。	他者と共に生きる自己の生き方について、思索することができる。また現代の倫理的諸課題を解決するため倫理に関する概念や理論などを活用して思考し、説明や対話をすることができる。	人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について追究したり、他者と共に生きる自己を形成しようとしている。
評価方法	定期テスト・課題・ノート・授業観察	定期テスト・課題・ノート・授業観察	授業に取り組む姿勢や意欲(論文・レポートなどの自主的な取組も含む)	

## 単元別 評価規準

### 第1章 哲学の始源：ギリシア思想

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	古代ギリシアの先哲が論じた人間観や人生観を原典資料から適切に読み取り、理解を深めることができる。またそれらの諸概念を自己の課題と結びつけて説明することができる。	古代ギリシアの思想の知見を用いて、人間存在及び他者と共によりよく生きる自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。	人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究するしよとしている。
	習得する (わかる)	古代ギリシアの先哲が論じた人間観や人生観を原典資料から読み取り、理解することができる。またそれらの諸概念を説明することができる。	古代ギリシアの思想の知見を用いて、人間存在及び他者と共に生きる自己の生き方についての考察をし、表現することができる。	人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について追究しようとしている。

### 第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラム教

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の倫理に関する諸概念を原典資料から適切に読み取り、十分に理解を深めることができる。またそれらの諸概念を自己の課題と結びつけて適切に説明することができる。	イエスの言行やパウロの言葉、古代・中世のキリスト教神学の知見を用いて、人間としてのよりよい生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。	宗教における倫理に関する諸概念の学習を通して、主体的に他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。
	習得する (わかる)	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の倫理に関する諸概念を原典資料から適切に読み取り、理解を深めることができる。またそれらの諸概念を自己の課題と結びつけて説明することができる。	イエスの言行やパウロの言葉、古代・中世のキリスト教神学の知見を用いて、人間としてのよりよい生き方についての考察をし、表現することができる。	宗教における倫理に関する諸概念の学習を通して、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。

### 第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	仏教、儒教、道家の思想の倫理に関する諸概念を原典資料から適切に読み取り、十分に理解を深めることができる。またそれらの諸概念を自己の課題と結びつけて適切に説明することができる。	『論語』『孟子』など原典資料の読解を通して、人間としてのよりよい生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。また性善説や性悪説といった対立する視点から現代の様々な課題を考察し、捉えることができる。	仏教や儒教における倫理に関する諸概念の学習を通して、人間について深い洞察を行い、また共感的理解の重要性について主体的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	仏教、儒教、道家の思想の倫理に関する諸概念を原典資料から適切に読み取り、理解を深めることができる。またそれらの諸概念を自己の課題と結びつけて説明することができる。	『論語』『孟子』など原典資料の読解を通して、人間としてのよりよい生き方についての考察を深め、表現することができる。また性善説や性悪説といった対立する視点から現代の様々な課題を捉えることができる。	仏教や儒教における倫理に関する諸概念の学習を通して、人間について洞察を行い、また共感的理解の重要性について理解しようとしている。

### 第4章 芸術と倫理

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	作品の特徴や作品の社会背景などから、芸術家が作品に込めた問いや思想などを適切に読み解くことができる。	芸術作品を通して、人間としてのあり方生き方について思索を深め、適切に表現できる。	美を求める心が人生を豊かにするものであることを十分に理解し、美の概念を自らの生き方と関わらせて主体的に追究しようとしている。
	習得する (わかる)	作品の特徴や作品の社会背景などから、芸術家が作品に込めた問いや思想などを読み解くことができる。	芸術作品を通して、人間としてのあり方生き方について思索し、表現できる。	美を求める心が人生を豊かにするものであることを理解し、美の概念を自らの生き方と関わらせて追究しようとしている。

教科 公民
----------

科目	政治・経済	(選択)	授業時数	2 単位
			履修学年	3 学年

目標	1. 政治的・経済的な考え方を働かせ、現代の諸課題を自分事として捉え、主体的に解決しようとする態度を養うとともに、「経世済民」の言葉の意味を理解し、平和で民主的な国家の形成を担う主権者として必要な資質・能力の育成を目指す。
----	---

●学習内容

1 学期	20 時間	2 学期	30 時間	3 学期	20 時間
<b>第1編 現代日本の政治と経済</b>		<b>第1編 現代日本の政治と経済</b>		<b>第2編 グローバル化する国際社会</b>	
<b>第2章 現代日本の経済</b>		<b>第2章 現代日本の経済</b>		<b>第1章 現代の国際政治</b>	
<b>1節 現代の資本主義経済</b>		<b>4節 福祉社会と日本経済の課題</b>		<b>2節 複雑化する国際政治と日本</b>	
1 経済活動の意義	2	1 公害と環境保全	2	4 軍縮の動向と課題	2
2 資本主義経済の発展と変容	2	2 農業・食料問題	2	5 紛争・難民・テロリズム	2
<b>2節 現代経済のしくみ</b>		3 中小企業の現状と課題	3	6 国際社会における日本の役割	2
1 経済主体と経済の循環	2	4 情報化の進展と社会の変化	2		
2 生産のしくみと企業	2	5 消費者問題	2	<b>第2章 現代の国際経済</b>	
3 市場経済の機能と限界	2	6 雇用と労働問題	3	<b>1節 国民経済と国際経済</b>	
4 国民所得と経済成長	2	7 社会保障と福祉	2	1 貿易と国際収支	2
5 金融のしくみと機能	2			2 戦後国際経済体制の展開	2
6 財政のしくみと機能	2	<b>第2編 グローバル化する国際社会</b>		3 発展途上国の経済	2
<b>3節 日本経済の発展と現状</b>		<b>第1章 現代の国際政治</b>		<b>2節 世界経済の現状と課題</b>	
1 戦後日本経済の発展	2	<b>1節 国際政治のしくみ</b>		1 グローバル化する世界経済	2
2 日本経済の現状	2	1 国際政治の特質	2	2 地球環境問題	2
		2 国際社会と国際法	2	3 資源・エネルギー問題	2
		3 国際連合の役割と課題	3	4 人口・貧困・感染症	2
		<b>2節 複雑化する国際政治と日本</b>			
		1 戦後国際関係の展開と日本	2	1年の振り返り	
		2 冷戦後の国際関係と日本	2		
		3 地域主義の動き	3		

<b>教材</b>
教科書:「701 政治・経済」 東京書籍 自主作成教材

<b>授業の進め方</b>
政治・経済の経済分野を中心に、日本経済の課題を捉えながら授業を進める。ニュースや新聞等を活用し、時事問題に興味・関心を抱かせる。

●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度	
評価規準	活用できる (できる)	市場経済のしくみを理解し、今日の国民経済の動向および世界経済が抱える課題などについて考察するための基礎的な知識を身に付けている。	政治経済分野における世界の諸問題を自分事としてとらえ、解決するための方策を考えることができる。	世界が抱える諸問題に対し、真摯に向き合う態度を身に付けている。
	習得する (わかる)	市場経済のしくみを理解し、今日の国民経済の動向および世界経済が抱える課題などについて考察するための基礎的な知識を身に付け、他者に説明できる。	政治経済分野における世界の諸問題を自分事としてとらえ、解決するための方策を根拠を持って自身の言葉で説明できる。	世界が抱える諸問題に対し、真摯に向き合い、主体的・協働的な態度で解決に向けて行動できる。
評価方法	定期考査・課題・ノート・授業観察	定期考査・課題・ノート・授業観察	定期考査・課題・ノート・授業観察	

単元別 評価規準

第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	資本主義経済の特徴を理解したうえで、政府の役割や社会主義経済との違いを説明できる。	初の社会主義国家であるソ連がなぜ崩壊したか、資本主義社会の今後を考え、説明できる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	資本主義経済の特徴を理解している。	初の社会主義国家であるソ連がなぜ崩壊したかを理解している	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 2節 現代経済のしくみ

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	経済主体の役割と、株式会社や市場の失敗などを理解し説明できる。	経済主体の役割を理解し、金融政策や財政政策の内容を具体的に説明できる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	経済主体の役割と、株式会社や市場の失敗などを理解している。	金融政策や財政政策の内容を理解している。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 3節 日本経済の発展と現状

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	戦後の経済再建とその後の高度経済成長を理解し、説明できる。	戦後の日本経済の歩みを政治と絡めて理解し、高度経済成長が日本社会にもたらしたものを考え、説明できる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	戦後の経済再建とその後の高度経済成長を理解している。	戦後の日本経済の歩みを政治と絡めて理解することができる。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 4節 福祉社会と日本経済の課題

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	環境問題や消費者問題などの身近な問題を、自分事としてとらえ、理解し説明できる。	環境問題などは、これまで学んできた日本経済の歩みと密接に関連していることを理解し、その課題を説明できる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	環境問題や消費者問題などの身近な問題を、自分事としてとらえることができる。	環境問題などは、これまで学んできた日本経済の歩みと密接に関連していることを理解する。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	国際政治のしくみや特質を理解し、国際社会が抱える問題を把握し、問題解決方法を提示することができる。	国際政治のしくみや特質を理解し、国際連合の役割や課題を考察することができる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	国際政治のしくみや特質を理解し、国際社会が抱える問題を把握している。	国際連合の役割や課題を考察することができる。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 2節 複雑化する国際政治と日本

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	複雑化する国際政治と日本の役割を理解し、今後の課題と展望を考察することができる。	地域紛争の歴史的要因を理解し、その解決策を自分の言葉で説明することができる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	地球温暖化をはじめとする環境問題や世界各地の対立や紛争を理解している。	地域紛争の歴史的要因を理解することができる。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

第2編 グローバル化する国際社会 第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	貿易と国際収支の関係を理解し、説明できる。	国際収支のしくみや発展途上国の課題などを理解し、解決方法を考察することができる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	貿易と国際収支の関係を理解している。	国際収支のしくみや発展途上国の課題などを理解することができる。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

第2編 グローバル化する国際社会 第2章 現代の国際経済 2節 世界経済の現状と課題

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	グローバル化する世界経済を理解したうえで、地球環境問題や資源問題を概観する。	広い視野で世界経済を概観し、その問題点を理解し、解決方法を考察することができる。	教科書などを使って自ら学び、疑問点を互いに話し合い教え合うなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	グローバル化する世界経済を理解している。	広い視野で世界経済を概観し、その問題点を理解することができる。	疑問点を互いに話し合い教え合うなど、協働的に取り組んでいる。

教科 地理歴史
------------

科目	歴史総合	(必修)	授業時数	3 単位
			履修学年	3 学年

目標	18世紀後半、産業革命・市民革命以降の世界の近現代史を、近代化・大衆化・グローバル化などをキーワードにして学ぶことにより、今日の国際社会がどのように成立したのかを歴史的原因に遡って深く理解する。またその中における日本の立場や役割を考察することによって、今後の国際社会の平和と発展に主体的に貢献する日本人としての自覚と資質の育成を目指す。
----	--

## ●学習内容

1 学期	30 時間	2 学期	45 時間	3 学期	30 時間
<b>第1章 近代化と私たち</b>	30	<b>5 節 帝国主義の発展</b>	5	<b>第3章 グローバル化と私たち</b>	30
<b>2 節 産業革命と市民革命</b>		帝国主義と列強の世界政策		<b>1 節 冷戦と脱植民地化, 第三世界の台頭</b>	
大西洋三角貿易		日清・日露戦争とアジア		アジア・アフリカ諸国の独立	
産業革命		<b>第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち</b>	40	西側諸国の多極化と日本の動向	
資本主義の成立と社会主義の発生		<b>1 節 第一次世界大戦と大衆社会</b>		日本の高度経済成長とアジアとの関係	
アメリカ独立革命とフランス革命		第一次大戦とロシア革命		米中の動揺とベトナム戦争	
ナポレオンと国民国家の成立		アジア諸国の独立運動		<b>2 節 国際秩序の変容と 21 世紀の世界</b>	
<b>3 節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大</b>		大正デモクラシーと日本社会の変化		冷戦の終結とソ連の解体	
イギリスの繁栄と近代世界システム		<b>2 節 経済危機と第二次世界大戦</b>		地域紛争の頻発とアメリカの動揺	
後発国による上からの近代化		世界恐慌とファシズムの台頭		グローバル化と地域統合の動き	
ロシアの近代化とアメリカの膨張		日中戦争と戦時下の日本		情報通信技術の発展と環境問題への対応	
<b>4 節 アジア諸国の変貌と日本の開国</b>		第二次世界大戦の開始と終結			
南アジアと東南アジアの植民地化		<b>3 節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成</b>			
東アジアの情勢と日本の開国		国際連合と国際経済体制			
		冷戦の開始とアジアへの波及			
		戦後改革と日本の独立回復			

<b>教材</b>
教科書:「183 高等学校 新歴史総合」 第一学習社
整理ノート:「新歴史総合ノート」 第一学習社
自主作成教材

<b>授業の進め方</b>
教科書の各単元冒頭のテーマ(問い)を意識させ、単元終了時に生徒がその問いに対して各自答えを持てるように、教科書の本文、史料、図版、その他のビジュアル資料に触れさせ、考えさせる。また時事的ニュースにも触れさせ、歴史と今日の事象との関連性に気付かせる。

## ●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる(できる)	歴史の大きな変化にともなう生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、近代化や国際秩序の変化や大衆化、グローバル化に関する問いを表現している。	現代の私たちと結びつけながら、課題意識をもって、主体的かつ協動的に学習に取り組んでいる。
	習得する(わかる)	歴史の大きな変化にともなう生活や社会の変容について考察し、近代化や国際秩序の変化や大衆化、グローバル化に関する問いを表現している。	現代の私たちと結びつけながら、課題意識をもって学習に取り組んでいる。
評価方法	定期テスト・課題・ノート・授業観察	定期テスト・課題・ノート・授業観察	授業に取り組む姿勢や意欲(論文・レポートなどの取組みも含む)

## 単元別 評価規準

### 第1章 近代化と私たち 近代化への問い

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	産業革命の背景と過程、資本主義経済の確立の影響、アメリカの独立の経緯、フランス革命の原因・出来事の経過、ウィーン体制の成立や特色、「パクス＝ブリタニカ」と呼ばれた19世紀のイギリスのあり方、クリミア戦争とロシアの近代化、イタリアとドイツの統一、アメリカ合衆国の膨張や国民国家としての統合などについて、十分理解している。	産業革命の背景と過程、資本主義経済の確立の影響、アメリカの独立の経緯、フランス革命の原因・出来事の経過、ウィーン体制の成立や特色、19世紀のイギリスのあり方、クリミア戦争とロシアの近代化、イタリアとドイツの統一、アメリカ合衆国の膨張や国民国家としての統合などについて、当時の社会の動向をふまえて理解した上で、それらを多面的・多角的に考察し、表現している。	産業革命に端を発した環境問題や貧困といった今日まで続く国際的課題や、アメリカの独立が革命と評価される理由、フランス革命とナポレオン戦争がヨーロッパに与えた影響、七月革命や二月革命とウィーン体制の動揺・崩壊の関係、政治・経済・輸送・情報の面から見た19世紀のイギリスの覇権、イタリアやドイツの国家統一、アメリカ合衆国の国民国家としての統合から排除された先住民や南北戦争後のアフリカ系住民の状況などについて、積極的に知ろうとしている。
	習得する (わかる)	産業革命の背景と過程、資本主義経済の確立の影響、アメリカの独立の経緯、フランス革命の原因・出来事の経過、ウィーン体制の成立や特色、「パクス＝ブリタニカ」と呼ばれた19世紀のイギリスのあり方、クリミア戦争とロシアの近代化、イタリアとドイツの統一、アメリカ合衆国の膨張や国民国家としての統合などについて、理解している。	産業革命の背景と過程、資本主義経済の確立の影響、アメリカの独立の経緯、フランス革命の原因・出来事の経過、ウィーン体制の成立や特色、19世紀のイギリスのあり方、クリミア戦争とロシアの近代化、イタリアとドイツの統一、アメリカ合衆国の膨張や国民国家としての統合などについて、当時の社会の動向をふまえて理解した上で、それらを考察し、表現している。	産業革命に端を発した環境問題や貧困といった今日まで続く国際的課題や、アメリカの独立が革命と評価される理由、フランス革命とナポレオン戦争がヨーロッパに与えた影響、七月革命や二月革命とウィーン体制の動揺・崩壊の関係、政治・経済・輸送・情報の面から見た19世紀のイギリスの覇権、イタリアやドイツの国家統一、アメリカ合衆国の国民国家としての統合から排除された先住民や南北戦争後のアフリカ系住民の状況などについて、知ろうとしている。

### 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化への問い

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	第一次世界大戦の背景と特徴、ロシア革命の背景と経緯、ヴェルサイユ体制とワシントン体制の内容、西・南・東南アジアの独立の動き、朝鮮・中国の民族運動、1920年代のアメリカ社会におこった変化、大正期における大衆の政治参加の過程、世界恐慌への各国の対応、1930年代の各国のファシズムや軍部の台頭、第二次世界大戦の勃発の経緯、ドイツ・日本の支配地域の実態と第二次世界大戦終結の過程などについて、十分理解している。	第一次世界大戦とそれ以前の戦争との違い、ロシア革命と日本への影響、国際協調の取り組みによる成果と抱えていた問題点、アジアの民族運動と第一次世界大戦との関連、三・一独立運動や五・四運動の原因と影響、1920年代のアメリカ社会におこった変化における光と陰、政治・経済・思想の視点から見た大正期の社会運動、世界恐慌がおきた背景やその後の世界への影響、ファシズムや軍部の台頭の背景、日本の国際的孤立、国家総力戦体制と当時の人々の意識、第二次世界大戦勃発の経緯などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	第一次世界大戦、ロシア革命やソ連の成立、ヴェルサイユ体制やワシントン体制、アジア各地の民族運動、アメリカ社会における移民、世界恐慌への各国の対策、ファシズムや軍部の台頭などがその後の世界や国際情勢にどのような影響を与えたのか、また日本の大正期の大衆の政治参加、社会運動への参加などが、その後の日本の政治や社会に与えた影響などについて、積極的に知ろうとしている。
	習得する (わかる)	第一次世界大戦の背景と特徴、ロシア革命の背景と経緯、ヴェルサイユ体制とワシントン体制の内容、西・南・東南アジアの独立の動き、朝鮮・中国の民族運動、1920年代のアメリカ社会におこった変化、大正期における大衆の政治参加の過程、世界恐慌への各国の対応、1930年代の各国のファシズムや軍部の台頭、第二次世界大戦の勃発の経緯、ドイツ・日本の支配地域の実態と第二次世界大戦終結の過程などについて理解している。	第一次世界大戦とそれ以前の戦争との違い、ロシア革命と日本への影響、国際協調の取り組みによる成果と抱えていた問題点、アジアの民族運動と第一次世界大戦との関連、三・一独立運動や五・四運動の原因と影響、1920年代のアメリカ社会におこった変化における光と陰、政治・経済・思想の視点から見た大正期の社会運動、世界恐慌がおきた背景やその後の世界への影響、ファシズムや軍部の台頭の背景、日本の国際的孤立、国家総力戦体制と当時の人々の意識、第二次世界大戦勃発の経緯などについて考察し、表現している。	第一次世界大戦、ロシア革命やソ連の成立、ヴェルサイユ体制やワシントン体制、アジア各地の民族運動、アメリカ社会における移民、世界恐慌への各国の対策、ファシズムや軍部の台頭などがその後の世界や国際情勢にどのような影響を与えたのか、また日本の大正期の大衆の政治参加、社会運動への参加などが、その後の日本の政治や社会に与えた影響などについて知ろうとしている。

### 第3章 グローバル化と私たち グローバル化への問い

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	アジア・アフリカ諸国の脱植民地化および第三世界の国際的役割、1950年代以降の日本の高度経済成長、イスラエルとアラブ諸国の対立を原因とする石油危機、アジアの経済成長、1980年代以降のアメリカ	第三世界が国際社会で存在感を強めた一方、その影響力は限られていたこと、経済成長が進む日本で過疎化や食料自給率の低下、公害問題の発生などさまざまな問題も生まれたこと、石油危	パレスチナ問題やインド・パキスタンの対立など現代まで続く問題の歴史的背景、高度経済成長の負の側面、中東地域で起きた戦争が日本を含む先進国に与えた影響、アメリカが国際協

	<p>の新保守主義、冷戦構造の変容、グローバル化の進展とその功罪などについて十分理解している。</p>	<p>機によって先進諸国が石油依存からの脱却をめざそうとしたこと、冷戦の終結とソ連の消滅がその後の世界に与えた影響、また 55 年体制の崩壊など日本への影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>調路線と自国優先主義とで揺れ動いていることを理解した上で、それぞれの政策の利点と欠点について、地域的統合の世界的な広がりとその利点・欠点を理解した上で今後の課題について、などを積極的に知ろうとしている。</p>
<p>習得する (わかる)</p>	<p>アジア・アフリカ諸国の脱植民地化および第三世界の国際的役割、1950 年代以降の日本の高度経済成長、イスラエルとアラブ諸国の対立を原因とする石油危機、アジアの経済成長、1980 年代以降のアメリカの新保守主義、冷戦構造の変容、グローバル化の進展とその功罪などについて理解している。</p>	<p>第三世界が国際社会で存在感を強めた一方、その影響力は限られていたこと、経済成長が進む日本で過疎化や食料自給率の低下、公害問題の発生などさまざまな問題も生まれたこと、石油危機によって先進諸国が石油依存からの脱却をめざそうとしたこと、冷戦の終結とソ連の消滅がその後の世界に与えた影響、また 55 年体制の崩壊など日本への影響などを考察し、表現している。</p>	<p>パレスチナ問題やインド・パキスタンの対立など現代まで続く問題の歴史的背景、高度経済成長の負の側面、中東地域で起きた戦争が日本を含む先進国に与えた影響、アメリカが国際協調路線と自国優先主義とで揺れ動いていることを理解した上で、それぞれの政策の利点と欠点について、地域的統合の世界的な広がりとその利点・欠点を理解した上で今後の課題について、などを知ろうとしている。</p>